



陸奥安達百目木駅八景図 | 版木 (百目木 渡辺善弘氏所蔵)



岩代の国

陸奥の国から岩代の国、そして岩代町へ。
時を経て今、悠久の昔へ思いはせる。



伊達政宗 / 1567~1836

米沢城主伊達輝宗の第一子として生まれた政宗は18歳で城主となり、天正13年(1585)、小浜城主大内定綱を攻め落とします。その後政宗は一年間小浜城に居城し、奥羽の覇者となります。岩代町内には、小浜城以外にも、父・輝宗ゆかりの「臥龍の松」や「御前清水」などの史跡が残されています。



臥龍の松
伊達政宗の父輝宗が、丹精込めて育てた松を西念寺境内に根付かせたものです。

絵師 歌川(安藤)広重 / 1797~1858

「東海道五十三次」などで知られる江戸時代後期の浮世絵師。自然を忠実に写し、庶民の体臭で画面を引き立て、描いた土地ごとに雰囲気を用意していると言われています。また、広重は50歳前後に奥州を旅したのですが、この北関東から東北の旅は「百目木」以外には全く足跡がなく、「陸奥安達百目木駅八景図」は大変貴重な意味を持っています。

御前清水
その昔、伊達輝宗の御用水であったと伝えられ、現在でもこんこんと水が湧き出し、往時を忍ばせています。



縄文土器 / 壺 人面土器 (中平遺跡出土) 高さ6.3cm

石橋氏の後は大内春継備前が東安達を領しましたが、天正13年(1585年)に伊達政宗父子の領有するところとなりました。大内備前が建てた「小浜城」は、政宗が攻め入った際に居城したことから「政宗ゆかりの城」として広く知られています。その後幾多の変遷を経て、寛永20年(1643年)丹羽光重入部以来、城代をおいて治めることとなりました。